2011年11月9日 新聞切り抜き情報（ＪＡＬ中間決算）

○日経新聞 日航の12年３月期、営業益1400億円に上方修正 2011/11/8 21:48

日本航空が８日発表した2011年４～９月期連結決算は、営業利益が前年同期比４％減の1061億円だった。東日本大震災で需要が落ち込み路線絞り込みなど合理化で補えなかった。コスト削減をテコに12年３月期通期の営業利益予想を1400億円と従来予想の２倍弱に上方修正した。

４～９月期の売上高は前年同期比22%減の5998億円。好採算の路線への絞り込みなどで座席供給量を国際線で28%、国内線で23%それぞれ減らしたためで、大震災の影響も受けた。機材見直しや人員削減の効果のほか、減価償却費の減少も寄与した。

タイ洪水の影響については、２カ月間で十数億円の減収要因になる見通し。関西国際空港―バンコク線を間引いて運航しているが、今後も「需要をみながら対応していく」（大西賢社長）。

稲盛和夫会長は「全社員が一丸となって再建を果たすという意志が強くなっている」と強調。自らの去就について「（10年２月の就任時に）３年の予定で就任した。健康の許す限り約束した期間、続けたい」と語った。

日本航空が８日発表した2011年４～９月期連結決算は、営業利益が前年同期比４％減の1061億円だった。東日本大震災で需要が落ち込み路線絞り込みなど合理化で補えなかった。コスト削減をテコに12年３月期通期の営業利益予想を1400億円と従来予想の２倍弱に上方修正した。

４～９月期の売上高は前年同期比22%減の5998億円。好採算の路線への絞り込みなどで座席供給量を国際線で28%、国内線で23%それぞれ減らしたためで、大震災の影響も受けた。機材見直しや人員削減の効果のほか、減価償却費の減少も寄与した。

タイ洪水の影響については、２カ月間で十数億円の減収要因になる見通し。関西国際空港―バンコク線を間引いて運航しているが、今後も「需要をみながら対応していく」（大西賢社長）。

稲盛和夫会長は「全社員が一丸となって再建を果たすという意志が強くなっている」と強調。自らの去就について「（10年２月の就任時に）３年の予定で就任した。健康の許す限り約束した期間、続けたい」と語った。

○読売新聞 日航の営業利益、上半期で更生計画見込み上回る

日本航空が８日発表した２０１１年９月中間連結決算は、本業のもうけを示す営業利益が１０６１億円となり、更生計画で見込んだ１２年３月期の営業利益７５７億円を上半期で上回った。

東日本大震災の影響で旅客需要は減少したが、不採算路線からの撤退や使用機材の小型化などコスト削減効果で、会社更生手続き中だった前年同期（約１１００億円）に近い利益水準を確保した。

売上高は５９９８億円、税引き後利益は９７４億円だった。円高で燃料費が抑えられたことも業績への追い風となった。

１２年３月期の業績予想を初めて公表し、売上高１兆１５００億円、営業利益１４００億円、税引き後利益１２００億円を見込んだ。

また、１２年中を目指す株式の再上場について、大西賢社長は８日の記者会見で、「できるだけ早いタイミングでやりたい」と述べた。（2011年11月8日19時33分　読売新聞）

○朝日新聞 日航、リストラ効果鮮明　営業利益１千億円超　中間決算

再建中の日本航空が好業績をあげている。人員削減など大胆なリストラが功を奏し、８日発表した２０１１年９月中間連結決算で営業利益は１０６１億円で、通期の目標の７５７億円を早くも上回った。１２年３月期連結決算の営業損益は、１４００億円の黒字になる見通し。

「４月は見事に赤字転落したが、社員が頑張った」。記者会見した稲盛和夫会長は自信をのぞかせた。

前年とは会計方法が違って単純比較はできないが、売上高にあたる営業収益は東日本大震災で旅客数が減り、５９９８億円と前年実績を２割程度下回った。ただ営業利益は過去最高益だった前年を３％下回るにとどまった。全日空が９月中間連結決算で営業利益が前年同期比１１．８％減だったのとは対照的。社員も「高コスト体質だった従来のＪＡＬではありえない数字」。

○毎日新聞　日本航空：１２年３月期決算予想　営業利益１４００億円に

日本航空は８日、１２年３月期連結決算の業績予想を初めて公表した。東日本大震災の影響で売上高は伸び悩むものの、昨年１月の更生手続き入り後に行った大胆なリストラの成果で、営業利益は更生計画の目標値（７５７億円）の２倍近い１４００億円を確保すると予想。来年９月にも見込まれる再上場に向けて、最大のハードルをクリアする見通しとなった。

売上高は東日本大震災や原発事故による４～５月の大幅な旅客減が響き、１兆１５００億円と、更生計画の目標値（１兆２２２９億円）は下回る。

経営規模では１１年３月期の旅客数に続き、１２年３月期には年間の売上高でも全日本空輸が日航を抜いて首位に立つが、営業利益は逆に、経営効率を大幅に高めた日航が全日空の２倍を確保することになる。

また、日航が同日発表した１１年９月中間連結決算は、売上高が５９９８億円で、営業利益は１０６１億円を確保した。会見した大西賢社長は「震災の影響は受けたが、国内線と日本発の国際線で想定した以上にお客さんの戻りが早かった」と指摘。再上場の時期については明言を避けたが、「できるだけ早いタイミングで行いたい」と意欲を示した。
【三島健二】毎日新聞　2011年11月8日　20時30分（最終更新　11月8日　23時39分）

○産経新聞 日航、今期の営業利益目標を倍増へ　再上場に向けて着々 2011.11.8 19:52

日本航空は８日、平成２４年３月期の業績見通しで、営業利益について、更生計画で目標として掲げていた７５７億円を２倍近い１４００億円に上方修正したと発表した。不採算路線からの撤退や機材小型化といった徹底的なリストラ策が奏功しており、来年度中の再上場への備えを着々と進める。ただ、タイの洪水被害や欧州債務問題などの懸念材料が、計画に水を差す恐れも出ている。

「どんな経済状況でも確実に利益を上げられる企業を構築していく」。日航の大西賢社長は８日の決算会見で、昨年１月以降に進めてきた経営改革を今後も推進する考えを示した。

この日発表した９月中間連結決算は、営業利益が１０６１億円と、早くも通期目標だった７５７億円を突破。東日本大震災に伴う需要激減で４月は営業赤字に陥ったものの、５月から黒字に転換、利益を積み上げてきた。

黒字化を牽引（けんいん）したのは、座席供給数を３割程度削減するなど、利用状況に合った運航計画を立て、収益率を高めたことだ。復興需要のあった被災地などへ臨時便を飛ばすなど、きめ細かく対応して搭乗率を高めたほか、割安運賃の設定などで夏休みの観光需要を取り込んだ。

日航の中間決算の売上高は５９９８億円で、ライバルの全日空の７０４８億円を下回ったものの、営業利益では日航が約５００億円上回った。

業績見通しの上方修正について、稲盛和夫会長は「再生したＪＡＬの実力を示そうと頑張ってきた」と自信をみせる。来年度中の再上場という目標達成に向け、大西社長は「早い時機に上場したい」と述べた。

日航は、下期以降もコスト削減を継続するほか震災からの回復が遅れている海外利用客の需要喚起策として、割安運賃の設定などを検討する。

○ブルームバーグ 日航：４－９月営業益、早くも年間目標超え－稲盛会長１月以降続投（1

11月８日（ブルームバーグ）：経営再建中の日本航空は８日、2011年４－９月期の連結営業利益は1061億円だったと発表した。更生計画案の目標757億円を早くも上回った。経営再建に向けた不採算路線整理の徹底と燃油費などの削減といった合理化策が奏功した。

連結売上高が5998億円、純利益は974億円だった。不採算路線の整理に続き、路線ごとの投入機材の見直しを今年も継続、需要に応じた供給調整の結果、有効座席キロベースで国内旅客では前年同期よりも２割程度減少、国際旅客は３割程度減少した、としている。同時に費用削減効果もあり、利益の拡大に寄与した。

同日の会見に出席した大西賢社長は「想定していた以上に乗客に利用していただいた結果だ」とし、とくに日本発の便で利用客が多かったと述べた。

利益が好調に推移していることもあり、今期の営業利益予想は1400億円、売上高は１兆1500億円、純利益1200億円の見通しと発表した。同社は、東京地方裁判所に提出した更生計画案に、11年度（11年４月－12年３月）の連結営業利益目標を757億円としていた。

稲盛和夫会長は会見で「来年１月に退くことは考えていない。健康の許す限り責任を全うしたい」として、続投する意向を示した。同会長は10年の就任当初、在任期間は３年としていたが、その後健康上の理由などから早期に退く意向を示唆していた。稲盛会長は会見で、ＬＣＣについても勉強したい、と意欲をみせた。

大西社長は、タイの洪水について「影響はこの２カ月間に数十億円レベルで出ている。今後も需給をみながら調整していきたい」と語った。

○共同通信 日航、営業益１０６１億円　９月中間、通期目標上回る

経営再建中の日本航空が８日発表した２０１１年９月中間連結決算は、本業のもうけを示す営業利益が１０６１億円だった。東日本大震災による旅客の落ち込みが当初の見込みよりも少なかったほか、経費削減も貢献した。１２年３月期の目標としていた営業利益７５７億円を大きく上回ったため、営業利益予想を１４００億円とした。

更生会社だったため単純な比較はできないが、１０年９月中間連結決算の営業利益１０９６億円には届かないものの、１千億円を超える利益を確保。記者会見した大西賢社長は「できるだけ早い時期に再上場したい」と述べ、１２年度の早い時期に上場を目指す考えを示した。2011/11/08 20:27　【共同通信

○時事通信 営業利益目標を上方修正＝今期１４００億円、再上場に前進－日航

日本航空は８日、２０１２年３月期連結決算の業績予想について、営業利益を１４００億円にすると発表した。企業再生支援機構の傘下で再建中の日航は、更生計画で営業利益７５７億円を目標に掲げていた。業績の好調を受け、上方修正に踏み切り、１２年中の再上場に向け前進した格好だ。

同日発表した１１年９月連結中間決算は売上高が５９９８億円、営業利益は１０６１億７４００万円だった。不採算路線からの撤退や航空機の小型化など収益の向上策が奏功した。旅客数は国内・国際線とも前年同期を下回ったものの、前年の４～９月の累積営業利益（約１１００億円）並みの水準を確保した。

記者会見した大西賢社長は「上場をできるだけ早いタイミングでしたい」と抱負を述べた。稲盛和夫会長は「来年１月に（会長職を）退くことはない」と強調、１０年２月の着任から３年としていた任期を全うする意向を表明した。(2011/11/08-19:29)